

次に我が國勞働者生活と勞働運動の實際を見る。

△勞働統計 (日銀調)

	勞働人員	定額賃銀	實收賃銀	△勞働爭議件數 (社會局發表)
大正十五年五月	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	昭和六年 二、四五六
昭和四年五月	九二、一	九八、六	一〇三、七	同 七年 二、二二七
同 五年五月	八四、九	九七、一	一〇〇、一	同 八年 一、八九七
同 六年五月	七五、〇	九一、六	九一、三	
同 七年五月	七四、六	八八、三	八七、〇	
同 八年五月	八一、五	八五、二	八八、一	
同 九年五月	九一、〇	八二、八	九〇、七	

右の統計によりて見るに、定額賃銀の低下し、實收賃銀の漸騰しつつあるは、裏面に殘業夜業を始めとして如何に勞働強化の行はれ居るかを證するものであつて、勞働人員の増加は、軍需輸出インフレが單に一時的に一般産業の不振を償ひつゝあるに過ぎない事を示すものであり、勞働爭議の減少は、獨り好況に基因するものに非ずして、實に非常時を理由とする資本家側の攻勢に對し、勞働者團結の力尙微弱の結果、不平不満を忍従しつゝあるためと、近來勞働組合が産業協力の實を示し、爭議の最少化に努力せる賜と見るべきである。

昨年末に於ける我が國勞働者數は、五二二六、七一九人にして最近のレコードを示して居るが、組織勞働者の數は、三八四

、六一三であつて、僅かに七・五%の組織率を示して居るに過ぎない。而して今日、共產主義左翼派の勞働組合運動は全く地を拂つて影なく、右翼國家主義團體も又四分五裂其の勢力の見るべきもなく、御用組合乃至會社組合は、表面日本主義の假面にかくると雖も、資本家の傀儡として其の利益を擁護し、自主的勞働組合の陣營を擾亂する以外の何ももなく、獨り我が日本勞働組合會議が日本に於ける勞働運動の主流として勞働階級の生活擁護の爲めに健闘しつゝあるのみである。

即ち我が組合會議は、過去一ケ年間に六回の執行委員會、三回の評議員會、數回の政治委員會を開催し、外は第十八回國際勞働總會に、羽川勞働代表一行を派遣し、ソシアル・ダンピング其の他の問題に對して活動せしめ、且つ永年の宿望たる亞細亞勞働會議の結成を見、内は全産聯總營の團體保險反對並に國營保險要求實現の運動を敢行し、又産業及勞働の統制に關する懇談會を主催すると共に、同趣旨に關する重要な建議を政府に要請し、非常時局に對する我が國産業及勞働の歸趨を明示すると共に、産業協力の實を擧ぐるの努力をなした。

只此の同盟友東京瓦斯産業組合が對會社關係の内部的原因より本組合會議より脱退の已むなきに至つたことは、甚だ遺憾であるが、一方神戸、名古屋、北海道、九州に於ける四地方協議會が組織せられ、各加盟團體の融和提携は益々健實を加へ、又全國勞働組合同盟と關西勞働總聯盟との合同が行はれ、且つ東京瓦斯産業勞働組合の脱退を見たるも、昨年比し資本の攻勢の激甚なる今日尙若干の加盟組合員の増加を見たことは、我が組合會議の健實なる勞働組合主義が廣く勞働大衆の支持を得つゝあることを實證するものに外ならない。尙三回の「組合會議時報」・「産業及勞働の統制に關する建議」・「亞細亞勞働會議の結成經過」を發行し、加盟各組合及び廣く各方面に配布し、組合會議の宣傳、擴大強化に努力した。